



- (7) オブチュレータがきちんと装填された状態で、チューブを挿入する(水溶性潤滑剤をチューブやオブチュレータの突出部分に薄く塗布すると挿入しやすい)。
- (8) チューブが正しく挿入された後、ただちにオブチュレータを取り除く。カフ付チューブの場合はカフをゆっくり空気を注入し拡張する。  
注意：オブチュレータを挿入した状態では気道が確保できない。  
注意：カフ拡張後、シリンジをバルブハウジングから取り外す。シリンジを接続したままにしないこと。バルブが開いたままになり、カフ収縮の原因になる。
- (9) 綿テープをチューブのネックプレートに取り付ける。患者の頭を前に曲げて綿テープを結ぶ。綿テープと患者の首の間に指が一本入るくらいに調節する。チューブの脱着を行う場合は、必ずカフを収縮させてから行うこと〔気管粘膜の損傷などの危険を避けるため〕。
- (10) 呼吸回路に15mm コネクタを使用中外れないよう確実に接続する。
- (11) 気管内に蓄積した分泌物や血液を吸引する。
- (12) 適切に気道が確保されたことを確認する。そのためには、チューブ孔での空気交換の音や両肺の聴診音で最初の留置位置を確認する。聴診やX線で最終的な位置を確認する。

## 2. 抜管

- (1) カフ付チューブの場合、吸引が禁忌である場合を除いて、抜管の前にはカフ上部にたまった分泌物を取り除くことが必要になる場合がある。シリンジをルアーバルブに差し込み、シリンジ内が明らかに陰圧状態になってパイロットバルブが収縮するまでゆっくりと抜気し、カフを収縮させる〔気道粘膜の損傷などの危険を防ぐため〕。

## \*\*【使用上の注意】

### 1. 重要な基本的注意

- (1) カフの拡張時の注意事項  
本品のカフは気管組織になじみ、患者に不快感を与えないように柔らかい素材でできている。正しく機能させ、拡張システムの破れや破損を最小限に抑えるために、挿管中及び使用中は正しい使用方法を守り、以下のことに注意すること。
  - 1) インフレーションラインはカフの拡張システムの一部として空気注入と空気圧維持用にデザインされているため、引っ張ったり曲げたりしないこと。
  - 2) インフレーションラインとカニューレの接合部へ張力を与えたり、患者の移動性を妨げない位置にインフレーションラインを維持すること。
  - 3) パイロットバルブのルアーバルブに糸屑や他の異物が入らないように管理すること。
  - 4) 鉗子などによりカフを傷つけないように注意すること。
- (2) MRI スキャンを実施する際はパイロットバルブを呼吸回路のYコネクタに近く、撮影部位からは3cm以上離れた場所に固定して使用すること〔撮影中の移動や画像の歪み防止のため〕(主要文献(5)参照)(自己認証による)。

### 2. 不具合・有害事象

アコマ社製ジャクソンリース回路と弊社シャイリー気管切開チューブ(製品番号:NEO)を併用したところ、ジャクソンリース回路のガス供給ラインが気管切開チューブの内径にはまり込み、呼吸を排出することができなくなった事象が報告されている。

### 3. 過剰使用

患者の分泌物などでチューブ内が汚れ、正常な使用状態を維持できない可能性があるため、定期的に使用状態を確認し、必要に応じて新しいものと交換すること。なお、30日以上の連続使用は避けること。

### 4. その他の注意

- (1) 使用前に本品と接続するチューブ類を確実に接続し、リーク及び閉塞がないことを確かめること。
- (2) 本品を麻酔器や人工呼吸器等に接続する際は十分に注意を払い、本品に無理な力が加わったり、リーク・閉塞が発生したりしないようにすること。使用中は患者の状態に十分に注意を払い、本品に無理な力が加わらないようにし、回路に異常が認められた場合は、ただちに回路を交換すること。
- (3) 本品に過度の力が加かからないように注意すること。
- (4) 予備(交換用)チューブを必ず患者の近くに用意しておくこと。

## 【保管方法及び有効期間等】

### 1. 保管方法

- (1) 水のかからない場所に保管すること。
- (2) 気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、イオウ分を含んだ空気などにより悪影響の生ずるおそれのない場所に保管すること。
- (3) 傾斜、振動、衝撃(運搬時を含む)など安定状態に注意すること。
- (4) 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないこと。
- (5) 太陽光線、紫外線照射を避けること。

### 2. \*有効期間

有効期間は自己認証(当社データ)による。  
有効期間については外装表示参照。

## 【保守・点検等に係る事項】

### 1. オブチュレータのクリーニング

- (1) 過酸化水素水(1/2に希釈)、食用酢(1/2に希釈)、滅菌生理食塩液、又は水で希釈した緩やかな作用の洗浄剤のいずれかで洗浄する。
- (2) 洗浄の後、滅菌生理食塩液でよくすすいで、洗浄溶液を残さないこと。  
注意：上記で指定されている以外の溶液で、本品のどの部分も洗浄しないこと。又、浸漬しないこと。

## \*\*【主要文献及び文献請求先】

### 1. 主要文献

- (1) 医薬安第 1017001 号「ポリ塩化ビニル製の医療用具から溶出する可塑剤(DEHP)について」(平成 14 年 10 月 17 日、厚生労働省)
- (2) 厚生労働省 医薬品・医療機器安全性情報 No.166
- (3) Morrison, M.L., Respiratory Intensive Care Nursing (Little Brown & Co. - Boston 1979) pp98-108
- (4) Shapiro, B., et al. Clinical Application of Respiratory Care (Year Bppl Medical Publishes - Chicago, 1979)pp254-257, 261-280
- (5) 薬生機審発 0801 第 1 号/薬生安発 0801 第 4 号「植込み型医療機器等の MR 安全性にかかわる対応について」(令和元年 8 月 1 日、厚生労働省)

### 2. 文献請求先

コヴィディエンジャパン株式会社  
カスタマーサポートセンター：0120-998-971

## 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元：  
コヴィディエンジャパン株式会社  
カスタマーサポートセンター：0120-998-971

外国製造業者名：  
Covidien  
(コヴィディエン)  
アメリカ合衆国